

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道418号 <sup>じゅうほうきょう</sup> 十方峡バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長野県								
起終点	自：長野県下伊那郡天龍村十方峡 <sup>しもないぐんでんりゅうむらじゅうほうきょう</sup> 至：長野県飯田市南信濃南和田 <sup>いだしみなみしなのみなみわだ</sup>	延長	1.81km										
事業概要	一般国道418号は、福井県大野市から岐阜県を経て長野県飯田市に至る延長約240kmの幹線道路である。このうち十方峡バイパスを含む区間は、天龍村と遠山郷（飯田市南信濃等）を結ぶ唯一の生活道路となっている。さらに緊急輸送路にも位置づけられているにも関わらず、狹隘で線形も悪く、土砂崩落がほぼ毎年発生している状況である。このため本事業は、延長1.81kmの2車線バイパスを建設することにより、道路の円滑性・安全性・信頼性を確保しようとするものである。												
H9年度事業化	H 年度都市計画決定	H11年度用地着手	H12年度工事着手										
全体事業費	61.7億円	事業進捗率	52%	供用済延長	0.76km								
計画交通量	2,399台/日												
費用対効果分析結果	B/C (未完成区間全体) 1.5 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/(未完成区間全体) 26/27億円 (事業費：25/26億円) (維持管理費：1/1億円)	総便益 (残事業)/(未完成区間全体) 40/40億円 (走行時間短縮便益：39/39億円) (走行費用減少便益：1/1億円) (交通事故減少便益：0/0億円)	基準年 平成18年									
感度分析の結果													
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅員狭小区間の解消・老朽橋及び老朽トンネルの解消・落石危険区間の回避</li> <li>遠山川増水時の冠水を解消</li> </ul>												
関係する地方公共団体等の意見	本路線は、地域交流の促進、地域住民の生活の安定を確保するため重要な役割を期待されており、飯田市他1町3村の首長で構成される国道418号整備促進期成同盟会及び長野県1町3村、愛知県1町1村の首長で構成される愛知・長野県境域開発協議会より早期整備の要望（平成18年10月18日）を受けている。												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	十方峡トンネルは、全国でも稀な信号処理で交互通行するネック箇所であったが、新十方峡トンネル及び藁野大橋の完成により、安全で円滑な交通が確保され、残る清水地区の早期整備が待たれている。												
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに0.76kmを部分供用している。残事業は、用地補償と主たる工事は、橋梁1橋、トンネル2本である。												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成21年までに用地買収を終了し、平成24年度に全線供用予定である。												
施設の構造や工法の変更等	今後の橋梁、トンネルの詳細設計において、更なるコスト縮減を考える。												
対応方針	事業継続												
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、残工事を実施することにより、当初の目的が達成されると考えられる。												
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <table border="1" style="margin-right: 20px;"> <tr><th>凡</th><th>例</th></tr> <tr><td></td><td>供用中</td></tr> <tr><td></td><td>再評価箇所</td></tr> <tr><td></td><td>うち供用中</td></tr> </table> </div>					凡	例		供用中		再評価箇所		うち供用中
凡	例												
	供用中												
	再評価箇所												
	うち供用中												

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。